

第9回 伊達市噴火湾文化研究所 東北大学東北アジア研究センター 学術交流連携講演会

災禍の苦難はどのようにして乗り越えることができるのか？ その方法にはたとえば慰霊祭や追悼式が上げられます。これは災害大国と言われる日本のみならず、世界各地でみられる光景です。困難を克服し前に進むために人類が獲得した文化ともいえるでしょう。

特に日本では火山による災害に定期的に見舞われています。そのため、火山を知るという取り組みも古くから行われています。いまもなお新しい火山の

知見が次々に発見されています。

講師の福田先生は災禍の後に行われる慰霊祭や追悼式の調査を通じて、現代社会がいかにして苦難を克服しているのかについて研究されています。また平野先生は、新種の海底火山「プチスポット」を世界で初めて発見した先生です。

両先生がそれぞれの地で、どんな研究をしているのか、なにが見えてくるのか、そしてそのフィールドで感じたことをご講演いただきます。

— 講師 —

講演テーマ

■ 深海底へのサンプルリターン — 現在と過去の太平洋深海底へ —



ひらの なお と
平野 直人 氏

東北大学 東北アジア研究センター
地球化学研究分野・准教授

【専攻】 海洋底科学・テクトニクス・
地質年代学・岩石火山学

【略歴】

2001年3月 筑波大学大学院博士課程地球
科学研究科修了博士(理学)
東京大学海洋研究所PD、UCSDスクリプス
海洋研究所PD、金沢大学フロンティアサイ
エンス機構PD、東北大学東北アジア研究
センター助教を経て2013年より東北大学
東北アジア研究センター准教授

講演テーマ

■ 慰霊祭・追悼式の社会学 — 津波記念行事にみられる災禍との向き合い方 —



ふくだ ゆう
福田 雄 氏

東北大学 東北アジア研究センター
災害人文学研究ユニット・助教

【専攻】 社会学・災害研究

【略歴】

2014年 関西学院大学大学院社会学研究
科博士課程後期課程修了
災害復興制度研究所RA、日本学術振興会特
別研究員PDを経て2018年より東北大学
東北アジア研究センター助教

平成30年
日時 10/26(金)

18:30~20:45
(開場18:00)

場所 だて歴史の杜
カルチャーセンター
視聴覚室

無料
申込不要

- 主催：伊達市噴火湾文化研究所
東北大学東北アジア研究センター
- 協力：かけはしの会

- 問合せ先：伊達市教育委員会生涯学習課文化財係
電話 0142-23-3331
E-mail bunka@city.date.hokkaido.jp

伊達市噴火湾文化研究所
東北大学東北アジア研究センター

第9回

学術交流連携講演会

プログラム

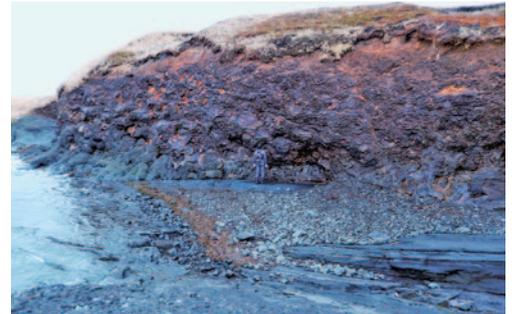
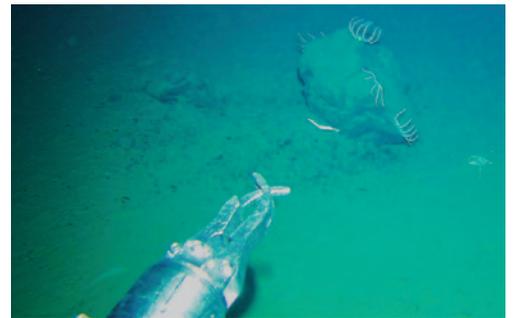
- 18:00~18:30 開場・受付開始
- 18:30~18:35 開会挨拶・教育長挨拶
- 18:35~18:40 講師紹介
- 18:40~19:30 講演① 平野 直人准教授
- 19:30~19:40 休憩
- 19:40~20:30 講演② 福田 雄助教
- 20:30~20:40 質疑応答
- 20:40~20:45 閉会挨拶

深海底へのサンプルリターン — 現在と過去の太平洋深海底へ —



ひらの なおと
平野 直人 准教授

極東ロシアから日本列島にかけての地域は、太平洋プレート沈み込みによる巨大地震や火山活動が多い。深海底のプレートの動きを探ることは、未知の地殻変動を探り当てることに等しい。三陸沖で発見され、ここ数十年で地球上の新型火山として認識されたプチスポット海底火山は、プレートの動きに伴う亀裂とマグマの上昇が原因で発生することが分かった。また、プレートの動きを何千万年もさかのほれば、陸上にいながら当時の深海底を観察することもできる。本講演では、現在の深海底の様子と、過去の深海底としての根室半島を紹介する。



慰霊祭・追悼式の社会学 — 津波記念行事にみられる災禍との向き合い方 —



ふくだ ゆう
福田 雄 助教

災禍のあとに行われる慰霊祭や追悼式に着目してきたこれまでの研究を紹介しながら、現代社会における苦しみとの向き合い方について考えてみたい。具体的にはスマトラ島沖地震、東日本大震災という同じ 21 世紀アジアで津波の甚大な被害を被った被災地域の記念行事をとりあげ、インドネシア・アチエと東北地方沿岸部という二つのフィールドにおける歴史的背景や日常的文脈を紐解いていきたい。本講演では、「他者」を描き出すことで、ひいては「自己」を新たに捉え直す、そのようなフィールドとの往還関係を描き出すことを試みる。

